

第4回 小金井市産業振興プラン策定委員会 議事録

日時 令和7年10月27日（月）午後6時00分～午後8時20分

場所 小金井市役所第二庁舎 801 会議室

出席委員 11名

委員長	中庭光彦	委員
副委員長	西川亮	委員
委員	佐藤剛	委員
	中根里美	委員
	橋本佳菜美	委員
	山口清	委員
	鴨下敏明	委員
	渡邊恭秀	委員
	今井哲一郎	委員
	益田智史	委員
	渡邊雅毅	委員

事務局	経済課長	島田泰吉
	経済課産業振興係長	田中達也
	経済課産業振興係主事	市原一典
	株式会社国際開発コンサルタンツ	氏原茂将

傍聴者 2人

議事

1. 開会（午後 6 時 00 分）

2. 議題

1. 新プランにおける方針と事業の位置づけについて

今井委員 前回の話を踏まえて議論するといったことだったが、前回議事録がない。また作為的な資料であることも気になる。作為的というのは、小金井市観光まちおこし協会の事業が多く取り上げられており、小金井市として協会に優先的に予算をつけようとしているように感じられる。

中庭委員長 後でそういったことも含めて意見を言ってもらいたい。

山口委員 商店街の再興を軸にして、色々な取組を紐づけていく方がよいのではないかと。委員の意見を網羅している点はよいと思うが、軸として商店街があった方がよい。その方がアクティブシニアや高校生の活動も商店街と紐づけるとリアリティが増すと思う。

今回新たに検討する事業として提案のあった提案型事業制度が立ち上がるとすれば、自分も関わっていきたいと思う。

中庭委員長 商店街を強調していないということか。

山口委員 商店街を軸にした方が生活者の立場からは共感しやすいのではないかとと思われる。

事務局 今井委員や益田委員から街が賑わうには商店街が賑わう必要があり、そうすれば各個店が活性化するという意見があった。それを踏まえて提案型事業制度を提案した次第であり、これを活用してもらえば商店街が盛り上がると思っている。ただ、その内容としては商店街だけでなく、工業事業者はもとより、活動しようとする市民も活用してもらいたいと考えた。結果として商店街が薄まってしまったとしたら、書き方についてご意見をいただけるとありがたい。

中庭委員長 今日意見をいただいてもよいし、委員会後にも意見を言ってもらえる機会をつくりたい。

橋本委員 前回委員会ではスマホの活用について検討しようという話になっていたが、それが盛り込まれておらず、スマホの活用に関して話し合う機会がないことは問題だと思う。今井委員の発言ももっともだと思う。

確かに前回話し合ったことはまとまっているが、新しいことを追加した方がよいのではないかと。一方で、既存事業の必要性についても効果検証をしてもいいのではないかと。例えば、まるん通信は古いタイプのブログという印象で、取り組んでいる労力に対して効果が得られていないのではないかと。

事務局 施策のラインナップについてはスケジュールの限り検討したい。

中庭委員長 委員会の後半で商店街を軸にすることと ICT の利活用について話し合いたい。

中根委員 継続事業が多いという印象であるが、本当に効果があるのか検証をした方がよい。惰性で継続することは望ましくないため、既存事業の精査が必要である。既存事業と新規事業のバランスが大事だと思う。

事務局	橋本委員への応答と同じことになるが、即答しにくいところであり、事務局で持ち帰って検討したい。
佐藤委員	<p>まろん通信は個人的にはおもしろい活動だと思っている。自分は184（いち・はち・よん）というフリーペーパーを発行していることに関わっているが、行政が関わりなく市民が主導で運営しているのはすごいことだと感心している。</p> <p>商店街振興を軸にするということだが、本プランは市民にとっての計画であり、既存事業者の支援のためのものではないと思う。ただ、既存事業者の方がいないとうまくいかないと思うが、それが前面に出るのは違和感を覚えた。</p> <p>資料を読み込めていないため、事後的に意見を述べる機会があるとよい。なお、今後、資料は委員会の2週間前には送ってもらいたい。</p> <p>自転車駐輪場が問題になるのは駅前だと思うので、駅前再開発の事業者に働きかけていくことを書き込むことは必要だろう。</p> <p>補助事業が資料に2点挙げられているが、より具体化する必要がある。また、財政部門との折衝も必要だと思うので、プランに位置づけられるかは疑問である。</p> <p>暮らし環境向上アクション提案事業は、例えば、1件上限50万円としてアイデアコンペをするといったことを想定しているのか。</p>
事務局	そのようにイメージしている。国分寺市では文化振興において同様の取組をしており、小金井市では商業分野にてやってみてはどうかと提案した。
佐藤委員	このような制度は審査基準の設定が難しい。ただ、そこが重要なところであり、適切に設計できれば目玉事業になると思われる。
中庭委員長	事後的に意見をいただく機会はつくりたい。
事務局	事後的に意見をいただく機会について方法を検討したい。
鴨下委員	<p>市民まつりが長らく中断しているが、自分としては再開したいと考えている。商工会が事務局をしていたが、中断した理由は市の財政負担や調整不足だった。ただ、市民からは実施を要望されているところであり、副市長をトップにして再開しようとしていると聞く。そのため、産業振興プランにおいて再開を明記してもらいたい。</p> <p>ただ、商工会としても市民参画が不十分だったことが反省点としてあるので、再開に際しては市民参画を促していきたい。市民参画が増えてくれば市民の発表・発信の場になると思うので、産業分野だけの盛り上がりにとどまらないイベントになるのではないかな。</p> <p>小金井市は三宅村（三宅島）と友好都市だが、市民まつりの際には三宅村（三宅島）の地域芸能や地域産品を紹介してもらっていた。そういった機会として交流を深め、魅力のあるイベントになっていく機会になると思う。</p> <p>最後に「やる気のある事業者」という表現はよろしくないのではないかな。事業者からも反発を買ってしまうのではないかな。</p>
事務局	市民まつりは経済課の管轄ではないが、新たな体制もあわせて実施について検討を庁内で進めているところである。
渡邊（恭）委員	新しいタイプの想像産業の誘導において「工場を必要としない」という表現があるが、工場を否定するような文章に捉えられるので改めてもらいたい。

ベンチャーポートに入居する事業者に聞くと、小金井市の創業支援のハードルが高いそうである。他市に流れている現状があるため、検証いただきたい。

事業者の立場としては雇用獲得が課題である。外国人の雇用についても研修期間を設けて取り組んでいるが、研修期間が終わると退職してしまうといったことがある。そのような研修期間の費用負担をしてもらえるとありがたい。

研修会補助の説明の際に展示会補助が触れられているが、展示会の参加費は高額である。半額支援では手が挙がるか分からないので、できれば全額支援としてもらえると助かる。

事務局 創業支援のハードルが高いといった意見があるということだが、検証が必要と思われる。雇用や展示会出店の助成についても検討したい。

渡邊（恭）委員 「工場を必要としない」に関してはいかがか。

事務局 その箇所は削除する。

今井委員 商店街を軸にすることについては山口委員が言っていたとお里と思う。小金井市には商工会、商店会、観光協会があるが、観光協会に予算をつけるためのプランではない。現プランでも取り上げている事業ができなければ、取り下げるといったことがあってもいいのではないか。

現プランを踏襲するというが、総花的で伝えたいことが伝えられていない。もっとわかりやすく打ち出すべきであると思う。前回のプランはまだしも、今回はきちんと明確にした方がよいと思う。

回数が限られているかもしれないが、議論を尽くした方がよいのではないか。

事務局 議論の機会を設けることについては検討させてもらいたい。

一般の方が分かりにくいプランは望ましくないため更新していきたい。また、観光まちおこし協会に利益供与をしているわけではないが、ご指摘のとおり協会の名前が何度も出てきているのは誤解を招くので再検証したい。

中庭委員長 産業振興プランは事業者の関係団体への予算配分の方が見えるということが大事だと思う。その上で聞きたいのだが、商工会、商店会、観光まちおこし協会にそれぞれどれぐらいの予算を充てているのか。

事務局 商工会は人的支援含めて約 1,300 万円、観光まちおこし協会は同様に約 2,300 万円である。いずれも財政支援である。商店会については組織には助成していないが、個々の商店街のイベントに対する助成を合算すると約 3,000 万円である。

中庭委員長 商工会の予算は、市からの予算のほかに、東京都からの助成が加わるのか。

鴨下委員 そのとおりである。事業への予算補助は一部であり、商工会としても支出している。

中庭委員長 商工会全体での事業に使える費用はいくらぐらいか。

鴨下委員 商工会は 1,400 事業所が会員登録しており、補助金だけでなく、会費もあわせて運用している。

益田委員 観光まちおこし協会は東京都からの助成ももらっており、予算も大きいはずである。そこで事務局の人件費を賄っている。

今井委員 それは農園に関係する事業であり、事務局は市が負担しているはずである。

益田委員

商店会の立場としては、「マイナスはゼロに、ゼロはイチに、イチはジュウにする」という3つの視点が大事にしたいと考えている。その区分でみると、今回挙がっている事業は「マイナスをゼロに、ゼロをイチにする」ための事業が多く、「イチをジュウにする」事業が少ない。また、商店会や商工会の名前があまり使われないことが残念である。既存事業を後押しする「イチをジュウにする」取組を求めたい。

商店会の事業者は特殊だと感じている。昼も夜もまちにいる壮年という地域において珍しい存在であり、現役世代は平日昼間に動くことができることも含め、まちづくりのプレイヤーとしては適当だと思う。その立場を活かしてまちづくりに関り、住民との関係のなかで買い支えてもらう関係を築いていければよいと思うので、商店街振興が打ち出されていない点は残念である。

また、農業に関してはブランド化を以前から取り組んでいるが、なかなか成果が出ていないため、今回も継続して位置づけるのかが分からない。農業をしながら商業を始めるといった取組をしてもらいたいと思うため、そういったアクションをする農業者には認定農業者以上の支援をするような取組があればよいと考える。

地区計画については触れてもらっているように勉強会から始めることが現実的なものかもしれないが、地権者が前向きになるようなメリットなどを書き込んでもらえるとういと思う。

商店街活動については助成を得ようとしても煩雑な申請をしなければならないので、申請を簡略化するか、申請のサポートする仕組みをつくってもらえるとよい。そうすると商店街活動が活性化すると思う。

小金井らしさを考えると、小さな事業者が障害者を雇用できるようになるとよい。障害者も多様な特性があって活躍の場があると思うが、最低賃金も上がってきていることから状況が厳しくなっていると思う。障害者手帳を持っていれば助成もあるが、発達障害の方たちは手帳を持っていない場合もある。そのような方たちの雇用に対して金銭的な支援をしてもいいのではないかな。

地域交流をする商店街への金銭的な補助や人的支援があるとよいと思う。横のつながりがないなかで商店会を結成しようとするところにも補助をもらえるとよいと思う。異業種交流への支援もあると、小金井らしい商店街振興ができるのではないかな。

中庭委員長
益田委員

商店会連合会は、横のつながりとしては弱いのか。

商店会同士のつながりは商店街連合会で十分である。商店会と他のつながりが気になる。商店会だけでは動けなくなっている状態のところもあるので、商店会とのマッチングを図っていくとよい。

事務局

以前から指摘いただいていたことが資料に取り込めていないので、それらについても位置づけを検討したい。

益田委員はアイデアをお持ちだと思うが、それらをすべてプランに事業として位置づけてよいのかは気になっていた。その上で、事業を実現しようとするならば、

	公募事業のようなかたちで都度提案いただき、予算配分をしていくということが現実的ではないかと考えた次第である。
今井委員	予算がなければ東京都などの補助金などを獲得すればよいことではないか。予算ありきでは大きなことはできない。
渡邊（雅）委員	<p>農業者は比較的補助があるとは思いますが、がんばっている農業者にとっては少ないことが問題であり、その点は考えてもらえるとありがたい。</p> <p>資料では、はちみつが取り上げられているが、産品は何でもよいと思っている。その点は再検証いただいた方がよいと思う。</p> <p>継続すべき事業と止める事業を選別すべきだという意見があったが、そのとおりであり、どんどんやることが増えていくことは避けた方がよいと思う。</p> <p>益田委員が、農業者が商業を始めると言ってくれているが、商業とつながる方が農業者としてはハードルが低い。生産量が大きくないため一品で展開することは難しいが、季節に応じて生産品を展開し、お店で触れられるようにすることは考えられるのではないか。小金井を訪れると産品に触れられるというような状況をつくれるとよいと思う。</p> <p>あと、まるん通信についての意見は、世代によって異なるのかもしれない。個々の記事は確かにおもしろいが、自分からアクセスしようとするサイトではないように思う。</p>
事務局	ブランド化については、意見を踏まえてプランに反映していきたい。ただ、農業の支援についてどこまで位置づけるかは検討を要するが、生産・販売の流れを書き込めるとよいと思うので、検討したい。
西川副委員長	<p>このプランは数値目標をどのように設定するのが気になった。プランの目標達成をどのように評価するのか、考えるべきである。</p> <p>今回の資料にふるさと納税という言葉が使われている。重要だと思うが、小金井市はどれぐらいの収支になっているのか。恐らく赤字なのだと思うが、財政においては負担になっていると思う。市民が小金井市にふるさと納税をするといったアクションを促していくにはどうすればよいのかを考えるべきだと思う。</p> <p>留学生や労働者として働く外国人への対応をどのように考えるべきか。国際化対応について位置づけた方がよいと思う。</p> <p>暮らし環境向上アクション提案事業について確認だが、「やる気」を評価することであれば、提案してきた時点で「やる気」はあるのだと思う。仮に提案内容が至らなくても、次につながるような伴走支援を行い、「やる気」を次年度以降につなげていく必要があるのではないか。</p> <p>銀行との関係について言及されていないため、融資あっせんなどの取組についても位置づけた方がよいと思う。</p>
中庭委員長	事務局として KPI についてどのように考えているのか。
事務局	産業振興プラン独自に KPI を設定しておらず、基本計画に準拠することになる。
西川副委員長	何を指すのかが共有できていないことが課題だとすると KPI の設定が回答のひとつになるのではないかと考える。
事務局	継続検討したい。

鴨下委員 空き店舗活用などが位置づけられているが、宅建協会などと連携しているのか。それがないと実効性がないのではないか。また、実際に出店した際には商工会に相談してもらえれば関連する事業者を紹介することもできる。

中庭委員長 小金井市には空き店舗はあるのか。

今井委員 ゼロではないが、空いたままで貸さないか、賃料が高いテナントで空いているという状況だと思われる。

中庭委員長 そのような状況だろうと思う。空き店舗の有無にかかわらず、出店希望者が集まるような環境をつくる必要があるのだと鴨下委員の意見を聞きながら考えた。

鴨下委員 以前、信用金庫が出資したビジネスコンペを行ったが、出店希望者が集まり、実際に出店した例もある。お金をつけて募れば集まってくるはずである。

中庭委員長 商店街の位置づけをどのように考えるか。本プランでは「稼げる事業者のための環境を整える」ことが大事なのだと思うので、書きぶりの問題ではないのではないだろう。事業として事業承継が位置づけられているが、事業承継を重視する人もいれば、事業承継よりも現在の事業を拡大していきたいという人もいる。商店街はコミュニティ機能も有しており、大事だとは思いますが、収益を上げていけないといけない。事業承継にも至らない。プランのなかで商店街を強調すればそれでよいのか。協調すればそれで稼げるのか。

今井委員 事業承継は大事だと思うが、まずは稼げるための取組をしなければいけない。駅前テナントは賃料が高くて店が入らない。一方、駅から遠い商店街は稼げなくて商売をやめる。しかし、駅から遠い商店街が賑わってくるとおもしろい事業者が出店するようになるということがあればおもしろい。

中庭委員長 これはインターネット利用にも関係する。駅から遠いところに足を運ばせるためのプロモーションが必要ではないか。

今井委員 前回委員会での橋本委員が話していたインターネットの活用については、手法や効果について商店主に周知できるとよいと思う。ただ、やはり苦手な人が多いので、情報発信を支援してくれる事務員がいると助かる。

中庭委員長 稼げる事業者を増やす、維持するということを目的として位置づけることでよいのか。

今井委員 目玉となるお店ができるとよい。

益田委員 事業承継というよりも、お店が引き継がれていくことが大事だと思う。お店を止めてテナントを空けてしまう人が増えたらお店がなくなってしまう。出店できる可能性がなくなる。テナントを貸す状況を残すべきだと思う。

今井委員 賑わっていればテナントも貸すようになるのではないか。

中庭委員長 テナントを所有する人に貸し続けるように促すことをどう実現するのか。

益田委員 テナントがなくなるから商店街が弱くなってしまうのだと思う。

中庭委員長 ハコを残すのか、それとも賑わいをつくるのか。どちらを目標とすればよいのか。委員会として意見を統一させておきたい。ハコを残そうとすれば、小金井市は賃料も高いため稼げる環境をつくらないといけないのではないかと自分は考える。

益田委員	ハコが残るかどうかは市場によると思う。稼げるかどうかは事業者の努力次第だと思う。
中庭委員長	今よりは稼げる環境をつくることをプランで謳うべきなのだろう。そして、そのためにスマホをどのように使うべきなのかがプランに位置づけるべきだと思う。
鴨下委員	飲食業と物販を切り分けて考えた方がよい。物販はコンビニや大型商業施設には勝てない。だから飲食店に着目した方がよいだろうし、飲食店は事業承継というよりも若い人に新しいアイデアをもってお店を出してもらうことに着目してもよいと思う。特に若い飲食店経営者はインターネットを使った情報発信をしているので、それを取り込んでいくのがよいのではないか。
佐藤委員	小金井市民だけではなく、小平市や府中市北部に住んでいる人たちにも訪れてもらうことを考えてもいいのではないか。さらに小金井市での回遊を促すことも必要だと思う。市場を広くして、小金井市に訪れてもらい滞在してもらう取組は行政としてもやりやすいのではないか。
中庭委員長	核となるお店があり、それを巡るように回遊するということはよいと思う。核となる商店を育てて発信するというをプランに位置づけるべきなのではないか。市内事業者としてそれに前向きになれるのか。
渡邊（雅）委員	スマホをどのように活用するのか。個人で発信することを促すのか、行政として情報発信を代行するのか。
中庭委員長	行政として情報発信をするとすれば、市内事業者がやってもらいたいことを提起するボトムアップ型でないといけないだろう。
益田委員	飲食店を経営する立場からすると、多くの飲食店はすでに情報発信をしている。だからスマホで情報発信をしようと言われても、もうやっているという印象になると思う。そのため、市として環境を整えてもらうような取組が望まれると思う。
鴨下委員	QR 決済でポイント還元される東京都の取組があったが、市民も事業者も認知されていなかった。行政による周知が不足していたのだと思う。東京都の予算がついたのにもったいない。
中庭委員長	なぜ情報が広まらないのか。行政の周知が不足していたとしても、事業者間で周知し合えばよいことではないか。
益田委員	情報を積極的に取得しようとする事業者は知っているし、そうでない事業者は知らないということだけだと思う。
中庭委員長	それを商工会や商店街でフォローできるのか。そういった取組をプランに書くことはできる。ただ、プランに書けば、事業者のみなさんには時間を使ってもらわないといけなくなる。書いてよいのかどうか確認してもらいたい。 1) 補助金を求める意見が多かったが、そのためには補助金の使われ方を評価しなければいけない。そのためプランには評価の着眼点を明記した方がよいと思う。 2) 市民まつりを復活させることはよいと思う。お店を出す人を呼び込むきっかけにもよいと思う。市民まつりに限らず、実施したらよいと思うイベントなどについては意見をもらいたい。 3) 「やる気のある」という言葉については表現をブラッシュアップするか、意味合いを明確にすることは事務局にて検討していただく。

- 4) 創業支援のプロセスの課題については行政として確認した方がよい。
- 事務局 創業支援のハードルが他市に比べて高いということは確認が必要と考えるが、現状、創業支援のプロセスに関する意見は市に寄せられてはいない。
- 渡邊（恭）委員 本創業支援のプロセスに関しては、商工会が窓口なのだが、手続きが煩雑であるため他市を推薦しているということのようだ。
- 中庭委員長 商工会から小金井市に連絡がなされていないことはおかしいだろう。そういったコミュニケーションや関係性についても考え直さないといけないのではないか。地元の事業者の関係性のなかでこそ把握される情報があり、行政は及び知らないということもあるため、情報共有のあり方は大事だと考える。
- 5) 外国人労働者の受け入れをどのように考えるべきか。行政としての取り扱いに配慮するトピックスと思われるので、事務局として検討してもらいたい。
- 6) 障害者雇用についてはプランに記載されるべきと考える。
- 7) 展示会の出展に対して 100%の助成をすることは行政として可能なのか。事務局として検討していただきたい。
- 8) 農業のブランド化は多くの自治体で言われるが、具体的手法を考えようとするると難しいテーマである。コンサルタントや広告事業者に委託してもうまくいかないため、できることから小さく始めることがよいと思われる。
- 9) 異業種連携は非常に大事だと思う。商店会があるなかで、商店会に入らない事業者との連携を図ることをどのようにするのか。資料にはコンペが提案されているが、そのような場が新たな事業者が登場する場となり、連携のためのプラットフォームになるのではないかと期待する。
- これで意見をいただいたことはフォローできたと考える。これらも踏まえて事務局で検討していただくとともに、委員のみなさんからも意見をいただきたい。いまここで話しておかないといけないということはあるか。
- 渡邊（恭）委員 武蔵小金井駅の坂下は商業施設がなくなっており、自動車を運転できない高齢者が多くなると買い物難民が多く発生してしまう。今から買い物支援について検討しておく、そのような状況に陥ることがなくなるのではないかな。
- 中庭委員長 近年、まちづくりにおいては、歩いて 15 分以内で日常の用を足せないといけなと言われていた。
- 鴨下委員 商工会、商店会で取り込めていないのは病院である。病院と飲食店が連携して健康によいメニューを提供するといったことも考えられる。
- 事務局 先日、西川委員のゼミの学生にヒアリングをする機会があった。市内商店の情報をどのように発信すればよいのかということ聞いたところ、情報はすでにあるから、どうやって検索してもらうかが鍵だと言われた。例えば「小金井」というキーワードを検索することを促す仕掛けだと言われた。武蔵小金井駅近くで地図アプリを使って調べるといったこともあるが、小金井市を訪れてもらう必要があり、そのためには小金井のことを検索してもらわないといけない。そういった仕掛けをどのようにすればよいのか。
- 橋本委員 小金井という検索キーワードを入力してもらうよりも、何かの言葉に関連づくかたちで小金井が検索キーワードとして推奨されるようにできないか。例えば、ジ

ブリをはじめ市内にはアニメ制作企業があるので、コラボレーションして聖地巡礼などを呼び込み、アニメタイトルなどを検索すると小金井市が推奨されるようになる」といふことを考える。

中庭委員長 それでは委員会はここで終了する。ただし、事後に意見をいただくため、急ぎ事務局より議事メモを共有いただき、メールなどで意見をいただくように運びたい。

3. その他

事務局より次回の委員会の開催予定を伝えた。

- ・日時：12月22日（月）午後2時30分～午後4時30分
- ・場所：小金井市市民会館萌え木ホールA会議室

4. 閉会（午後8時20分）